

を興へられた。後國人その命に服せず、土寇大に起り、秀吉は鎮西の諸大名に命じ援兵を送つて之を平定せしめた。成政恐懼し、十六年正月大坂に上つて陳謝したが聽されず、命じて尼崎に拘し、閏五月自刃を命ぜられた。成政時に年五十。

サツサホクジン 佐佐北盛 金澤の俳人。百々庵と稱した。通稱一峰。石浦町に住して彫刻を業とし、明治三十二年六月四日七十八歳を以て歿した。

サツノトチノキ 雜能登路記 ↓ノトメイセキシ 能登名跡志。

サツマイモ 薩摩芋 薩摩芋に就いては、明和元年八月廿四日附御算用場から運所奉行に對する通牒に、薩摩芋・琉球芋を領内に生産せしめよとの令があり、越中に出來するとは聞いて居るが、今も存するや否やといふことが書いてある。しかし、文化六年本多利明が金澤に來た時、宮腰・大野・黒津舟・木津・高松等の砂濱に之を植ゑれば好果を得るであらうと説いたことを政隣配に載せてあるから、尙その頃はこの地方一般に栽培することがなかつたと見える。然るに天保中に至つて能登に甘藷のあつたことは、同七年越中の寶田敬がその地に旅行した時に書いた能州日曆によつて知るべく、越中には之が無いと言つてゐる。又加賀では、天保饑饉の後藩吏關澤房清が、初めてその移植を石川郡本吉に奨勵したと傳へ、且つ九年十月に至り、從來甘藷は専ら他國産を用ひたるが故に口錢を徴したが、近年領内に産するから該口錢を廢止するとの命があつたから、恐らくは能登の栽培が最も早かつたやうに思はれる。

サツ—サト

サト 里 鳳至郡南志見郷に屬する部落。
サトウ 座頭 座頭は男子の盲人で、檢校の配下にある者であるが、武家・町方に吉凶ある時、米錢を請ふの特權を認められてゐた。その施與の額は、固より一定の慣習がある譯ではなかつたが、彼等の意に満たぬ時は、多人數を糾合して強請する者もあつたから、享保元年藩は嚴に之を戒め、且つ施物を受ける爲に二人以上同行すべからざることを規定して、檢校連名の請書を徴した。後寶曆元年檢校等は、先の上書に不備の點があつたといふので、改定を申請し、永世の規範を定めた。

サトウイエモン 佐藤伊右衛門 越前府中に於いて前田利家に仕へ、利長に隸した。伊右衛門歿する時、子甚兵衛幼にして跡目を襲がず。後澤村氏を冒し、寛永八年津田勘兵衛の興力となつて二百石を領した。
サトウキエモン 佐藤喜右衛門 百五十石を領し、天和三年歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

サトウキエウエモン 佐藤久右衛門 前田利長に松任に於いて仕へ、七百石を領し、大聖寺陣に従ひ、歸後三百石を加へ、慶長十四年歿。子孫世々藩に仕へる。
サトウコウサイ 佐藤衡齋 通稱衡平。初名は岩井水禪。文政八年金澤に生まれ、書を業とし、義父冬吾に學び、遂に最も重其昌の筆意を得た。維新の後學校教育に従事し、明治十九年六十二歳を以て歿した。

サトウシゲマサ 佐藤重政 通稱久右衛門。父は久右衛門某。慶長五年大聖寺陣に従うて新知二百五十石を受け、前田利常の部屋附となり、十四年父の遺知の内七百石を賜はり、足輕頭として大坂兩度の陣に従ひ、元和元年百石を加へ、世嗣光高に附屬し、寛永十五年二百石を加へ千石を領した。翌十六年歿。
サトウタケヒテ 佐藤武英 通稱右八郎。加賀藩の足輕であつた。容貌魁偉資性悍悍、人呼んで鬼佐藤と稱し、戊辰の役越後に轉戦し、凱旋して藩の中尉となつた。置隊の後職を石川縣警察に奉じ、過卒少長より九等警部に進み、明治十一年島田一良が參議大久保利通を暗殺せんとした時斡旋する所少くなかつた。之を以て紀尾井町の變後終身禁獄に處せられ、十二年喪心して石川島監獄に憤死した。

サトウタテハキ 佐藤帶刀 幼より前田利常に仕へ、慶安十四年父久右衛門(初代)の配分知三百石を受け、大小將番頭に任じ、大坂陣には横目を勤め、凱旋の後百石を加へ、次いで光高に隸し、寛永十四年二百石を増し、十五年歿した。

サトウナホチカ 佐藤直周 通稱平左衛門。佐藤久右衛門(初世)の三子帶刀から六代の孫。祿四百石、大小將組に班したが、在江戸中永原藤左衛門の刀を盗み、寶曆十二年十二月廿九日露顯し、十三年正月一類預けとなり、七月入牢を命ぜられ、明和元年三月五日獄死した。

サトウナホユキ 佐藤直之 通稱與三右衛門。初め豐臣秀吉に仕へたが、慶長十九年前田利長の臣となつて二千石を受け、足輕頭・御馬廻頭に歴任して元和五年歿した。
サトウナリタネ 佐藤成種 通稱仲左衛門。組外に屬し、祿三百石を受けた。元祿七年改

作奉行に任ぜられ、在職二十五年頗るその事務に長けたが、貞享三年小物成の徵集案亂の狀を上申し、遂に罪を得て謹慎を命ぜられ、五年五月十八日自害した。その子主馬、後に今枝氏の興力となり、二百石を受けた。
サトウバシ 座頭橋 金澤橋梁記に「座頭橋、池の小路に有之」とある。倉月用水に架けられたもので、往時池、小路に盲人が居住した故に橋名に呼んだものであらう。今は絶えて無い。
サトウヒロキヨ 佐藤廣清 通稱助左衛門。元和九年前田利常に仕へ、寛永二年新知二百石を受け、六年父廣宗の遺知の内百石を併せ、寛文元年改作奉行に任じ、貞享二年七十六歳を以て歿した。

サトウヒロムネ 佐藤廣宗 通稱武内。初め柴田勝家に仕へたが、天正十一年前田利家の臣となつて三百石を領し、名を氏寛と改めた。後大坂再役に敵首一を得、寛永六年歿。子孫藩に世襲する。

サトウモトモ 佐藤元知 通稱儀左衛門。藩士今枝氏の興力で、兵學は有澤氏の高弟であつた。文政三年以降村松吉右衛門と謀つて心學をその家に請じ、天保十年十月二十七日二歳で歿。元知は號を克己庵又は金蘭堂といふて、和倉湯治夢物語・藩國武夫干城録等を著した。

サトゴ 里子 古く村方で農事に使役する奉公人をいうた。前田綱紀時代延寶七年正月附の加賀郡頭振百姓人員取調書に「貳千五百八拾人加賀郡頭振惣人數。内百拾參人御侍方奉公人。六人寺方奉公人。四拾壹人町方奉公人。貳百四拾七人里子奉公人。四百貳拾八人